≪やましろフュージョン：01≫

≪サイクリング特区にしき川流域の【軸】とは？≫

「道」の「自由使用」と「目的外使用」についての考察の変わらない「軸」

SBF⇒CAJ⇒Moc

目的外使用と等身大企画

サイクル県やまぐち後継企画

その【軸】を応用しよう！

SBF⇒CAJ⇒Moc／その【軸】は変わらず！

「MTBの山道走行問題」に悩まされた“SBF”、「自転車ソフトの標準化問題」が浮上した“CAJ”、そして「サイクリングの法的根拠問題」から生まれた“Moc”。。。関係する要素が変わり守備範囲も微妙に変化する間も、一貫して、レースとツーリングの性格を合わせ持ち組織で道を遊ぶ【ツーリングコンペティション】を軸に、日本の実情（道路事情や余暇事情など）に合った自転車遊びを模索しながら自転車走行環境整備の必要性に触れて来たが。。。

日本最大級のMTBイベント「シマノバイカーズフェスティバル／SBF」に四半世紀に渡って携わる中、単独イベントだけでは解決できない「MTBの山道走行問題」に世紀を跨いで悩まされる。
自転車協会主催の東日本大震災復興支援企画「サイクルエイドジャパン／CAJ」では、県境を跨ぐサイクリングコース設定で「自転車ソフトの標準化問題」を警察庁交通規制課から突き付けられる。
明治維新150周年応援企画「毛利チャレンジ／Moc」を“いわくに研究会”として組み立てている最中の2016年12月9日に、『自転車活用推進法』が成立したが「サイクリングの法的根拠問題」は多分置き去りに。。。

自転車遊び利用促進実証実験／その【軸】の可能性の模索

独りツーリングコンペティションとも言える日本縦断に学生時代に何度か挑戦。また、ショップ店長の頃、“サイクル・キャンプ・コンペティション”とネーミングした企画を、長野、群馬、徳島と行う。その後の海外取材で、“MTBラリーレイド”や“ブルベ”と出会い、組織で遊ぶことの大切さを痛感し、中級上級のサイクリストを対象に、〝マウンテンバイク〟や〝スポルティフ〟の【ツーリングコンペティション】を仕掛ける。しかし、日本では時期尚早と公的には認知されず、その日本の実情へのジレンマから、実験企画で〝ポタリング〟版の『THT26』を生み出し、“SBF”や“CAJ”にも応用するが・・・。
日本では「サイクリング」に対して大多数の人が〝のんびりツーリング〟をイメージし、欧米では〝レースを含む、スポーツサイクリング全般〟と認知されている。そのため道路を走る法的根拠も曖昧で、個人だと自由使用、集団や企画では目的外使用となる。つまり、イベントサイクリングは目的外使用の典型であり、組織で遊ぶ【ツーリングコンペティション】は、等身大企画として自由使用の範囲に収めることが可能で、その認知が自転車市民権獲得への近道と考え、「街道」「山道」「町の道」を網羅する形で“転遊研”として実証実験を続けている。

「組織で遊ぶことの大切さ」とは、80年代から90年代に出会った、長崎県サイクリング協会の若山さん、東京都サイクリング協会の左近さん、フランス・スターバイクのシルバン、そして、ニューサイクリング編集長の今井さんやサイクルスポーツ編集長の宮内さん、彼らの言葉の中に潜んでいた日本の自転車文化向上のためのキーワード。

サイクル県やまぐちProject後継企画／その【軸】の限界！？

2018年秋の明治維新150周年に合わせて企画された「サイクル県やまぐちProject」の後継企画を考える機会もあり、「地域貢献型マルチサイクリングクラブ」を提案したが、やはりサイクリングの法的根拠の壁に阻まれ、鶏が先か卵が先か状態。結局、予算を必要とするイベントサイクリングにしても、等身大企画が可能な【ツーリングコンペティション】にしても、運営スタッフの確保や先達的コースクリエイターの育成など、マンパワー不足が深刻な課題に！！

2015年3月に公開されたホームページに「サイクル県やまぐちProject」は、「最も幅広いジャンルで総合的にサイクルスポーツ振興に取り組み、交流人口の拡大を目指します。」とある。

サイクリング特区にしき川流域／その【軸】を応用しよう！

この【軸】の限界を感じる中、〝道〟を遊ぶ【ツーリングコンペティション】を、〝未知〟を遊ぶ【ゲーム旅／THT26】に変えて、[岩国市への提言]を作成し、その一部を平成令和の超大型連休に「Go羅漢ハイランドギャザリング」として実施するものの、サイクル県やまぐちとの連携不足や、懸案事項の停滞、やましろエリアの時間距離の壁などが重なり不発に終わる。しかしそれを糧に、他の移動手段や様々なジャンルを融合する「サイクリング特区にしき川流域」に辿り着く。

「サイクリング特区にしき川流域」では、インフラ・メンテナンス（サイクリストライセンス＆観光メンテナンス）とソフト・バリエーション（クローズド＆オープン）の実験実施を通じて、近未来の市民の足の模索や地域資源再発見を行い、出来ればその延長で、サイクリングネットワーク再構築や自転車市民権獲得を含む「RM26系リアルサイクルエイドジャパン」の再々提案を通じて、関連団体にこの【軸】の大切さを訴えたい。

岩国市への提言・第二弾／その【軸】は地域を救う！

今回の“物見遊山的里山資本主義・六次産業化地域ブランド磨き後方支援企画”は、「点・線・面、広域から全国へ！」を意識し、「レディメンテナンス」としての“道普請”や“地域資源再発掘”を日々の活動としながら、「プロモーションイベント」としての「MTB系クローズドサーキットレース」や「かるたドライブ系オープンロードラリー」を仕掛け、それらのバランスを取りながら展開案を組み立てる「Closed & Open／Ready & Promotion」を新たに提唱！